

一 購入金額壹万八千八百卅九十四錢九厘ノ内壹万八千七百六十

貳円七十四錢ハ寄付金ヨリ支出七拾六円四十錢九厘ハ米穀商組合

長ヨリ一時支出シタルモノナリ

一 購入石数ト廉売石数ト總計シタル結果壹石三斗一合減石トナル

一 本表ハ廉売ニ関スル物資ノミノ計算表ナリ

(注) 別紙明細書欠。

(四)

白米廉売ニ関スル不用品払下計算表

一 白米空袋 七百九拾八袋

内 訳

一 七百八拾參袋

払下ノ数 參拾錢ノモノ貳參參個
貳拾五錢ノモノ五五〇個

此金貳百七円四拾錢

一 拾五袋

払下ヲナスコト能ハザル破損品

一 枡 七組

内 訳

一 六組

払下ノ数 壹円ノモノ五組
七拾錢ノモノ壹組

此金五円七拾錢

一 壹組

払下ヲナスコト能ハザル破損品ニ付役場ニ備ヘ付

アリ

一 箕 五枚

一 五枚

払下ノ数 廿五錢ノモノ三枚
十五錢ノモノ二枚

此金壹円五錢

一 ザル 五個

一 五個

払下ノ数 壹個四錢ツ、

此金貳拾錢

一 筵 拾貳枚

一 拾貳枚

払下ノ数 拾錢ツ、ノモノ拾枚
八錢ツ、ノモノ貳枚

此金壹円拾六錢

一 小舞貫外參拾八点

木材 払下

此金參円拾壹錢

合計金貳百拾八円六拾貳錢也

(救済関係書類及白米廉売綴ニ大磯町役場蔵)

第二節 節米勤儉貯蓄奨励

三三 節米奨励に関する神奈川県告諭および通牒

神奈川県告諭第一号

欧州戦乱ハ既ニ終熄シ平和ノ曙光ヲ覩ルニ至レリト雖經濟界ニ於ケル諸物価ノ昂騰毫モ底止スル所ナク殊ニ我が国民ノ主食物タル米価ノ騰貴今日ノ如キハ国民生活ノ安定ヲ脅威スルコト誠ニ深甚ナリトス是レ朝野ノ均シク憂懼ニ堪エザル所ナリ今ヤ政府ハ根本救済策トシテ耕地ノ拡張栽培法ノ改良等ニ因リ米穀増殖ノ方策ヲ樹テ或ハ海陸運輸ノ便ヲ図リ其ノ他機宜ノ処置ヲ講ジテ米麦食糧品ノ集散ヲ調節シ且外米輸入ノ増加ヲ図ル等遺策ナキヲ期スト雖由來我ガ国人口ノ増殖年々七十有余万ノ多キヲ數ヘ一人当リ消費量亦逐年増加ノ勢ヒヲ示シ從テ国内ノ生産ヲ以テ到底消費ノ全部ヲ充タスコト能ハス倍々外米ノ供給ニ俟ツコト多カラントスルノ状勢ナリ抑々国民日常生活ノ主食物ヲ国外ノ供給ニ依頼スルノ危険ト不利トハ股鑑遠カラズ這回ノ戦乱ニ於テ各国民ノ痛ク經驗セル所ナリ況ヤ米ノ如キ生産消費共ニ一定ノ地域ニ極限セラレ世界的商品タル能ハサルモノニ於テヤヤ仍ホ一朝有事ノ秋ニ当リテ只ダ之ガ供給ノ途ヲ失フノミナラス平時ニ於テ已ニ其ノ供給ノ數量價格等ハ国外事情ノ如何ニ制セラレ国民生活ノ安危繫リテ大ナルモノアリ故ニ国民ハ政府ノ方策ト努力トノミニ倚賴セス進シテ各自ノ責任ヲ自覺シ深く國家ノ利害休戚ヲ鑑ミ以テ食糧獨立ノ國策ヲ達成セシムルノ覚悟アルヲ要ス此際國民ハ拳ツテ主食物ノ範圍ヲ拡張シ内地米ノ消費ヲ節用スルトキハ一ハ以

テ米ノ過不足ヨリ生スル一般生活ノ不安ヲ根柢ヨリ芟除シ一ハ以テ人口ノ急速ナル増加ニ伴フ需給ノ不均衡ヲ未然ニ抑止スルヲ得ベシ是レ実ニ刻下ノ急務ナリトス県民亦克ク此ノ趣旨ヲ諒シ協力一致以テ之ガ実効ヲ擧グルコトニ勗ムベシ

大正八年六月二十五日

神奈川縣知事 井上孝哉

代用食奨励ニ関スル依命通牒

今般内地米節約ノ目的ニテ代用食奨励ノ義ニ付本県告諭第一号ヲ以テ管下一般ニ対シ諭告相成候処右ハ本邦人口並ニ消費量ノ逐年激増スル結果内地産米ノミヲ以テシテハ到底其ノ需要ヲ充タス能ハズシテ累年多量ノ外米ヲ輸入シ其ノ不足ヲ補填シツ、アル状態ニ有之最近三ヶ年平均輸入量三百四十二万余石〔台鮮ヲ含ム〕價格四千三百二十八万余円大正七年ニ於テハ外米ノミニテ四百八十七万余石ニ達シ国幣ノ流出正ニ八千九百七十五万余円ニ超エントスルノ状況ナルガ如斯ハ密ニ國家經濟上多大ノ損失ナルノミナラズ米食ノ単用ハ個人經濟及衛生上ニ於テモ不利ナルモノ少ナカラザルガ故ニ此ノ際普ク県民ノ自制心ニ訴ヘテ代用食ヲ奨励シ米殊ニ内地米ノ消費ヲ節約シ以テ我國食糧問題解決ノ一端タラシメントスル趣旨ニ候処本問題

ハ国民生活ノ根柢ニ関連スル極メテ重大ナル社会問題ニシテ一日ヲ緩ウスベカラザルモノ有之候奈左記御含ミノ上地方ノ事情ニ応ジ適切ナル事項ヲ撰定シテ普ク部内ニ実行セシメ以テ目的ヲ達成致度依命此段及通牒候也

実行要項

- 一 職業ノ種類ニ依リ可成朝、昼、晩中ノ一食ニハ麵麩、饅飩、素麵、蕎麦等ヲ用ルコト
- 二 米ニ麦、粟、黍、稗、大豆、小豆、豌豆、菜豆、南瓜、大根、里芋等ヲ混用スルコト
- 三 馬鈴薯、甘薯等ヲ単用シ或ハ飯ニ混ジテ用ルコト
- 四 米ノ精白程度ヲ低クシテ食スルコト

実行方法

- 一 部内ニ於ケル官公吏、地方改良会、農会、在郷軍人会、青年団、婦人会其他ノ団体並ニ多人数ヲ使用スル会社、工場等ニ対シテハ可成多数連合シテ団体的ニ該趣旨ノ実行ニ努メシムルコト
- 二 学校長ハ其ノ児童生徒ニ対シテ該趣旨ヲ徹底セシメ少年時代ヨリ善良ノ習慣ヲ得シムル様努ムルコト
- 三 便宜上横浜市ニ於ケル主食改良会ノ如キモノヲ設ケ実行ノ中心

機関トスルモ一案タルベシ

大正八年六月二十五日

各郡市長宛

内務部長

(民力涵養運動ノ概況) (大正一四年) 神奈川県庁蔵

三三 勤儉貯蓄奨励等に関する橘樹郡訓令

橘樹郡訓令第壹号

町村役場

勤儉ノ風ヲ奨メ質実ノ俗ヲ興シ冗費ヲ節シ以テ其ノ余資ヲ積マシムルハ国民生活ノ基礎ヲ安定ナラシメ進テ将来ニ活用スヘキ生産資金ノ充実ヲ期スル所以ニシテ平時夙ニ力ヲ致ササルヘカラス而シテ因歩重要ノ時局ニ処シテ之カ必要更ニ一層ノ切ナルヲ感セスムハアラス是レ曩ニ勤儉貯蓄ノ奨励ニ関シ訓示セル所以ニシテ爾來之カ実績ニ徴スルニ銀行預金ニ郵便貯金ニ將又簡易生命保険ニ喜フヘキノ傾向ヲ示セリ然レトモ一般国民殊ニ各種労働者ノ生活状態ニ察スルニ所得ノ著シク増加セルニ拘ラス其ノ余資ハ將來生活上ノ安定ニ供スヘキ蓄積ニ充テラルルコト少ク却テ享樂ニ徒費セラルルノ風ナキニアラス如此ハ戦後ノ将来ニ処シテ健全ナル国家ノ伸暢ヲ期スル所以

ニアラス今や世界ノ大戦乱モ漸ク休戦ノ時期ニ入りテ平和ノ克復ヲ見ル亦方ニ近キニアルヘク列国カ緊張セル気分ヲ移シテ今後更ニ全幅ノ力ヲ国力ノ恢復ニ傾倒シ輸贏ヲ平和ノ経済場裡ニ争ハムトスルハ正ニ必然ノ事タルヘク我國民ハ自重自制今ニ於テ之ニ処スルノ覚悟ナカルヘカラス乃チ此際一般國民ニ対シテ更ニ一層自覺の消費節約ヲ促シ余財ヲ蓄積シテ生産資金ノ増殖ヲ図リ以テ戦後ノ経営ニ資スルト共ニ一面生活ノ安定ヲ期スルハ極メテ必要ノコトタリトス地方行政ノ任ニ当ル者宜シク此ノ趣旨ヲ体シ其ノ実果ヲ収ムルニ最善ノ努力ヲ致シ地方ノ開發國運ノ伸暢ヲ図ルニ於テ違算ナキヲ期スヘシ特ニ注意ヲ要スル事項ニ就テハ既ニ屢々指示シタル処ナルモ就中重要ナルモノヲ左ニ列挙ス各地方ノ状況ニ応シ適切ノ方法ヲ選ミ虚ヲ捨テ実ニ就クノ途ヲ講スヘシ

大正八年一月八日

橘樹郡長 隈元清世

記

一 儉素質実ノ美風ヲ養成スルコト

公私各種ノ集會ヲ利用シ講演其ノ他適當ノ方法ニ依リ普ク勤儉貯蓄ノ美風ヲ鼓吹スルハ最も必要ノコトタルヘシ然レトモ地方

二 副業ノ奨励ヲ図ルコト

有志身ヲ以テ之ヲ率ユルニ非ラスンハ充分ノ効果ヲ収ムルコト能ハス彼ノ冠婚葬祭ノ如キ人生ノ大礼元ヨリ忽ニスヘカラスト雖華美虚飾ニ流ルルハ最も慎マサルヘカラス然モ地方ノ慣習ニ制セラレ近隣ノ誹謗ヲ恐ルルノ余意ヲ枉ケテ冗濫ノ失費ヲ余儀ナクスル者亦甚尠カラス宜シク各地有識ノ士卒先儉素質実ノ美風ヲ醸成スルニ努ムヘシ

三 労働者ノ為メニ共同貯金ノ途ヲ講スルコト

事業勃興ニ伴ヒ収入頓ニ増加セルニ拘ラス労働者ノ多クハ空シク之ヲ濫費シテ顧ミス他日各種事業ノ變動ヲ見ルニ到ラハ其困厄甚シキモノアルヘシ此ノ際多數労働者ヲ使役スル会社工場等ニ対シテハ特ニ規約貯金等ヲ奨励シ以テ之レカ救済ノ途ヲ講セシムルニ努ムヘシ

四 近時青年補習教育ノ必要ヲ認メラレ之ニ関スル諸般ノ施設見ル

ヘキモノアルニ至レルハ喜ブヘキ現象ナリトス

教育ノ徹底ハ不斷ノ努力ヲ可成永続セシムルニアルコト論ヲ俟
タサル所ナリ本郡青年補習教育ノ現状ヲ視ルニ此ノ点ニ於テ遺
憾少カラサルヲ認ム可成其ノ修業年限及期間ノ延長ヲ計リテ一
層有効ナラシメラレムコトヲ望ム

各町村ニテ開催セラル、地方改良ニ関スル会合〔青年団、在郷
軍人分会、校友会、戸主会、地主会、敬老会、納税組合会、産
業組合会等〕ノ状況諸会ノ規程申合其他改良ニ関スル参考トナ
ルベキ事項ハ詳細報告セシメラレンコトヲ望ム

〔関村会勸業教育書類〕（大正八年）飯田助丸氏蔵

三三 橘樹郡大綱村菊名勤儉質実申合規約書

勤儉質実申合規約書

世界ノ大戦乱ハ漸ク平和ヲ見ルニ至リタルモ諸物価ノ暴騰及労働賃
金ノ向上等ハ依然トシテ下ラズ農家ノ生産物モ亦随テ高価ニ売却セ
ラル、モ生活上必要ナル日用品等ノ購買費ハ既往ニ幾倍スルノ状況
ニアリ且ツ近來質実ノ風ヲ欠キテヤ、モスレハ華美虚飾ニ流ル、ノ
傾向アリ今ニ於テ相互ニ慎マザレハ遂ニ農家ノ収入ハ支出ヲ償フニ

足ラザルノ慘状ヲ呈スルニ至ラン依ツテ我々ハ生活ノ安定ヲ期セム
ガ為メ勤儉質実ノ規約ヲ為スコト左ノ如シ

一 婚礼ノ事

一 嫁及嫁ノ披露目ノ節大字一般即チ戸主并ニ若衆ニ対シテハ中産
以上酒壱斗中産以下酒五升何レモ肴ハ有合ニテヨロシキ事

二 従来嫁及嫁ハ顔見世ト称シテ大字内各戸ヲ廻ハリタルモ爾來ハ

聲ハ披露目ノ節会合ノ場所ヘ出頭シテ挨拶ヲナシ嫁ハ別段其場所
ニ出ズシテ酒樽ニ名前ヲ書キタル札ヲ貼リテ出ス事

三 婚礼当日及親戚間ノ継目等ハ任意トスル事

二 葬祭ノ事

一 従来葬式当日ニハ大字内ノ半数ハ早朝ヨリ出頭シテ世話ヲナシ
出棺ノ際全部ノ送リヲナシタルモ爾來ハ半数内ノ講中ニ於テ世話
役ニ就クコト、シ出棺時刻ニ間ニ合フヤウ残り半数ハ待合セテ見
送リヲナス事

二 葬式当日ハ一般酒ヲ廢シ膳部ヲ廢シ海卷（音晚）ヲ出スコト

七日法等親戚間ニ於テ馳走ヲナスコトハ妨ケナキモ葬式当日ニ
ハ絶対ニ酒ヲ廢スレトモ墓地穴掘ノ者ニハ酒壱升ヲ限り出ス事

三 香奠返し等ヲ為サル事

四 仏事法要ハ可成輕便ニ行ヒ得ラル、ヤウ心掛中産以下ハ月並題

目又ハ念仏等ノ節之ヲ為スコト頼ミ題目念仏等ノ如キハ任意トスル事

正月〔休業〕ノ事

一 田打正月ハ從來七日ノ所ヲ五日トシ八月野上リ正月モ亦五日トスル事

二 其他可成從來ノ正月ヲ減少ナス事

講日待ノ事

一 從來ノ日待ヲ廢シ稻荷講地神講ハ春ニ於テハ兩講ヲ合併シ秋ノ地神講ハ何レモ從來白米尅升金二十錢ヲ持チ寄リ夕朝昼ト兩日ニ股ガリ三食ヲ供シタルモ爾來ハ白米五合金五錢トシ昼一食トナス事

時間勵行ノ事

一 從來ノ時間ニハ何事ニヨラズ遅レ勝ニアリシモ時ハ即チ金ナリト云フ格言ヲ守リテ互ノ迷惑ニナラサルヤウ所謂カケ値ナク正刻迄ニハ何レモ集合スルヤウ心掛クル事

右申合規約ヲ遵守スル為メ玆ニ署名捺印候也

大正八年三月

(注) 署名捺印欠。

大綱村菊名

(「関教育書類」(大正八年) 飯田助丸氏蔵)

三三 節米に關する件通牒

米ノ節約ニ関スル件

昨年下半年期ヨリ現今ニ亘リ米価ハ実ニ空前ノ騰貴ニシテ一般生活上困難ヲ來セルハ上下ノ公認セル事実ナリ而シテ之カ原因ハ種々アルヘシト雖モ米ノ供給不足ヲ來セルハ主因ト目スヘキモノニシテ此際一般米ノ節約ヲ行ヒ職業ニ依リテハ一日一回粥若ハ小麦粉ヲ用ヒ其ノ他ニ在リテモ麦、馬鈴薯、甘藷等ヲ併用シ生産者ニ在リテハ努メテ剩余ヲ生セシメ之ヲ売却シ以テ消費ノ節約ヲ図ラレンコトヲ望ム此ノ意味ニ於テ目下郡農會ヲシテ右節約ニ関シ馬鈴薯ノ米代用法ヲ印刷セシメ不日郡内一般ニ頒布セシメントス各位ハ之カ趣旨徹底ニ努メ且ツ馬鈴薯ノ増殖ニ関シテハ差当リ種球ヲ要スヘキヲ以テ所要ノ數量ハ速ニ申出アランコトヲ望ム

(「町村長會書類」(大正一一八年) 箱根町役場蔵)

第二節 民力涵養運動

三三 神奈川県民力涵養大会における県知事

井上孝哉の講演

諸君、私は御会同の諸君中多くの御方には本日初めて御目に懸る

のでありませうと思ひます、私は本県知事井上孝哉であります、本日は県下に於ける有力なる諸君の御会同を煩はしまして、一本法学博士の御講演を請ひ、並びに内務大臣代理の御訓示を願ふことになりましたが斯く多数諸君の御來駕を受けることを得まして、洵に本大会の爲め、従つて国家の爲めに本懐に存ずる次第であります、而して此機会に於きまして私は自治の振興、並びに民力の涵養に関する問題に就きまして聊か国を憂ふるの衷情を諸君の前に披瀝することを得るのを最も光榮に存ずる次第であります。

諸君、我国が今日非常なる国運の發展を遂げまして、宇内各国の羨望の標的となつて居ることは別に詳はしい説明を試みる迄も無く恐らく諸君に於きましても御同感のことと存じます、明治大帝御維新以来、茲に五十年、外には日清日露の大役を経まして今次の世界大戦に及び、或は領土の拡張に、或は商権の伸張に、素晴らしい勢いで国威が發揚されつゝあります、又内には産業の振興、教育の發達、運輸交通の整備など凡ゆる民力が育成されつゝあるの狀態であります、併し乍ら我国の国威民力が斯くの如く發揚進展しましたのは、抑々何に基因するのでありませうか、之れを地域から見まして我国の一区域、一地方が發達したのみで斯くの如くなる事を得ませぬのは素より明らかであります、又之れを人の範圍から考へまして

我国の国民の一階級が如何に發達致しましても斯くの如く国威を發揚することは出来ないものと存じます、シテ見ますれば帝国の隅々迄、悉く非常なる發達を致しまして初めて斯くの如くに国威を發揚せしむる事が出来ましたものと存じます〔拍手〕、左様致しますると帝国の隅々まで斯くの如く進歩しましたと云ふのは抑々も何に帰着しなければならぬものでありますか、其の原因は何くに在るかと思はれたらば、私は実に我市町村制の実施三十年の不断的努力に因るものと深く信じます〔拍手〕、素より数へましたならば他にも原因はありませうが、自治制の發達——自治制度の確立及運用が着々として其の緒に着いて参りましたのが全く我国をして今日あらしめたる所以であると申しましても敢て過言ではあるまいと確信を致して居ります、唯今局長閣下も訓示されました如く、此の自治なるものは実に非常なる力を持つて居るものであります、即ち自己の運命を自分の責任で定める、と云ふのが此の自治の真髓であります、骨子であります、左しやうと思へば左する、右せむとすれば右する、水に飛込まうと、火を擲まうと悉く自分の意思の欲する儘である、人から指図されましたならば頗る不満であります、自分の意思の欲する儘に自分が行動するのでありますから之れ位愉快なことは無い筈である、時に水に投じて死ぬ人も往々非常なる愉快を

以て死ぬるのでありませう、兎に角、自分の意思の儘になつて他に之れを制するものがない、従ひまして自治即ち自己が自己を支配すると云ふことは偉大なる力を持つて居るものでありまして同時に世の中の進歩發達と云ふ事も此の力を除いて他に期待することは出来ないであります、最も近き例を採りまして、私、自身の実験に就いて申しますと、私は嘗て友人並びに医者^イの勧告に従ひまして酒と煙草とを廃めやうと努めた時代がありました、が、中々行はれませぬ、之は私が改めて申迄も御座いますまい、諸君の中にも定めて御実験を持つて居らるゝお方があらうかと思ひます、ところが或る一寸した機会に於て自ら進んで酒と煙草とは是非廃めなければならぬと云ふ自覚が起つたことがあります、此の場合に於て所信を断行することは洵に平々坦々たるもので、其の間には又自分で自分の慾を制するといふ事が実に云ふ可からざる愉快を感じしめるのであります、今まで我慢をして居つたが稍やもすると「飲み度いな」と思ふ、其の思ふ時に「イヤまだ飲んでではならぬ」と自分で自分を制する、其の制することに依つて自分の心が如何に強いかと云ふことを自覚致しますと、飲むよりも吸ふよりも遙かに多くの愉快と感動とを自分に与ふるのであります（拍手）、都市などに於きましては斯くの如き場合はありませぬが、私共の実験に依りますと、北国の寒

い国に於きましては雪滑り又は氷滑りと云ふことをする、スキー若くはスケート、さう云ふ種類の慰みがある、朔風凜冽として肌を劈くやうな嚴冬の日、雪の日、氷の上に立つ、一時間も立って居るのを他^ミから見たならば頗る氣の毒に思はるゝでありませうが、併し乍ら己れから進んで、己れが好むでスキーをやり、スケートをやると、半日は愚か一日でも頗る愉快に其の寒さに打勝つて、我が力は何程あるか、我意思はどの位働くかと云ふことに就て実に言ふべからざる愉快を感じるのであります、自治の力あることは正に斯くの如き卑近の例に依つても明らかにすることが出来るであらうと考へます、而して我国が今日の如くに進歩發達致しましたのは右申します如く実に自治に基因すると致しまして、扱て、此の自治制の確立及運用に就いて直接に参画せられましたる所の人達^ニ、村長、議員並に吏員諸氏が我国の發達に対して如何に多くの貢獻をなされたかと云ふことを思ひますと我々は、声色を励まして之を表彰しても猶且つ足りないやうな感じを覚へるのであります、斯くの如き諸君が三十年の永い歳月を倦まず一つの絶間もなく継続致しまして、そして今日に至られた其の努力、其の貢獻が我が自治制に対して如何に大なる力を致されたかと云ふことを我々は確認しなければなりません、又確認せざるを得ぬのであります、乃^ニで之が為めに今日

斯くの如き盛會に於て此の榮譽ある諸君の表彰が行はれました所以を明かにする事が出来ると思ふのであります、併し乍ら此の表彰は只だ表彰したと云ふばかりで夫れで畢はるものでありませうが、今日表彰をして仕舞へば万事が済んで、あとは最早此等の人達に対して何も剩すところがないとして夫れで宜しいものでありませうか、今日茲に行はれましたところの表彰は、國家の發達社會の進歩と云ふ人類至高の目的の一部分を負担せられましたる人達の功績を社會的に確認すると云ふ重大なる意味を含むて居るのであります、従ひまして此の表彰は今日一日の表彰ではありませぬ、今日を期して永く表彰すると云ふのであります、亦單純なる御世辭ではありませぬから權威がなければなりません、夫れで私は社會は此等の諸君に対して大なる敬意を払はなければ相成らぬものと考へます、社會は我國家社會の爲めに大なる貢獻をしたる自治制の功勞者に対して充分なる尊敬の念慮を払ふのが當然であらうと考へるのであります。

私は人と苦を俱にする、人と榮みを頌つと云ふことに就いて私自ら甚だ疚しい所があるやうに思ふ、人が非常なる榮譽を得る、私は其を大に喜んでやるのが當然でありますのに、疚しいかな、何となく甚だ多くの快感を起さないことがあり得る、人の喜びを俱に大に喜んでやりたいと云ふ心を起さない場合があることを感ずる、或は

又人が非常な困難に陥る、之に対して大なる同情をして其苦みを偕にするのが人たるもの、最も尊い理想であると考へて居りまするのに人と苦みを偕にすることに對して大なる同情をすることを躊躇するやうなことを自ら疚しく感ずることが往々にしてあります、独り私のみならず、或は失礼かも知れぬが、率直に、碎けて申しますれば、日本人は往々にして人と苦樂を俱にすると云ふことが幾部か欠けて居りますまいかと疑ふことが多いのであります、人を責むることとは容易い、そして亦中々能く人を責めます、町村長、助役等の人は今少し努力しなければならぬ、今少し町村の爲めに事業を起さなければならぬ、經濟を甘くやらなければならぬ、と云つて責むることとは誠に至れり尽せりであります、併し乍ら其の人の功勞を賞讃する場合に於て果して多くの人が口を揃へて、同様の熱心を以て其人を賞讃するのでありませうか、と思ひますると甚だ疑ひ無き能はざるところがあります、茲に軍人を見ませう、戰爭に往く、身命を賭して國家の爲めに大に奮戦をして呉れる、卑怯のことがあつては相成らぬ、未練の振舞は断じて相成らぬ、と云つて國民は非常に責めます、非常に多くを期待致します、其の軍人が死んで仕舞つたとなると同情を致します、氣の毒である、國の爲め我々の爲めに身命を捨て、護つて呉れた、實に氣の毒だと云ふ同情は致しますが、其の

同情は凡そ何年位続きますのでありませうか、其の同情が亦其の遺族に対して如何に厚く報いられるのでありませうか、此の点に就きましては私は遺憾ながら甚だ完からざる処があるかに感ずるのであります〔拍手〕、新聞紙を御覧なさい、人を攻撃する、人を非難することは実に沢山に、而も多くの行数を惜まずして掲げられるものであるが、人を賞讃する方の記事と云ふものは頗る微々たるものが多いやうに考へる、私は単り新聞紙を責めるではありません、社会の読者が、人を責める、人を攻撃する、非難することに就いては、多くの樂みを以て之れを通読するが人の善行を賞讃する記事は余り熱心に迎へない、斯様にイヤな傾向があればこそ新聞紙をして攻撃することに大なる活字を用ひ、賞讃することに小さな活字を用ひしめると云ふ風に仕向けて居る傾きがありはせぬかと云ふことを深く遺憾に存するのであります〔拍手〕、是は少くも私自身に於て斯くの如き欠点があると云ふことを自ら疚しく感ずるのでありますから、社会に於ても斯くの如き欠陥がありはせぬかと憂ふのであります、今日表彰を受けられた諸君の如き榮譽ある人達は町村に於きまして何かの場合に最も榮譽ある席に据ゑるが宜しい、如何なる人も之に対して最も多く尊敬の標的にすることが、私は社会の進歩すべき根柢を造るものであらうと考へます、先づ隗より始めよと云ふ

ことがありますが、或人の功勞を表彰するのに吝かならず其の人を尊敬するに充分の誠意を以てしたならば、更に、以上の人々が益々自治制の爲めに町村の仕事に向つて大に発奮努力するに相違ない、と、斯く私は結論したのであります。

私は近く横浜へ参りました深く感じたことがあります、と申しまするのは、亜米利加と日本との間に、御承知の如く船鉄交換、即ち日本で船を造るべき約束が出来ました、其の造船所は横浜船渠でありますとか、浅野造船所、内田造船所、浦賀船渠など色々船渠があります、其処で夥しい所の大なる船が建造されたのであります、そして之を監督する爲めに亜米利加ではマツクレゴウと云ふ人を派遣して居るのであります、私も折々各造船所に於て其人に遇ひました、此のマツクレゴウと云ふ人は米國第一流の立派な紳士であります、ところが此人は、諸君、驚くべし、年俸一弗、日本の金に致しまして二円の年俸であります、実に一時間の報酬かと思ふ位僅かなものであります、夫れが此の米國第一流の紳士の一年三百六十五日の報酬の全額になつて居るのであります、而も此のマツクレゴウなる紳士は我横浜に駐在致しまして驚くべき程の熱心を以て日々事務に執掌致して居ります、其の勤勉努力は非常なものであります、社会上一流の地位を占むべき人が僅か二円の年俸を以て斯く

の如く大いなる努力をすると云ふのは、抑々も何に基因するのでありませうか、是は米国の一般社会が名誉ある地位の人を如何に尊敬するか、言葉を換へて申しますれば社会が其人に対して払ふ尊敬の分量が充分に多いが為めに、其の人が社会に対して大いなる努力を重ねて顧みないと云ふ事に帰着するのであります、亦斯くあつて初めて其人の仕事が名誉ある職で、其の人が名誉ある地位に置かれると云ふことが出来ませう、我々が折々耳にして甚だ不快に感じますのは、或処に於て或人を目して、あの人は余り役場に出ないぢやないか、夫れは其の筈だ、名誉職だもの、無理はない、と斯う云つて人がある、役場へ出る時間？そんなものはない俺は名誉職だ、俺は名誉職で村長だ議員だ、そんな拘束は知らぬ、と云ふやうなことを平気で甲も云ひ乙も答へて毫も疑はないやうなことが往々にしてあります、勿論夫れは斯くすべしと強制される訳のものではありませんが、併し乍ら讀つて考へて見ますると名誉職なるものは名誉職であるが為めに其の時間を怠つても又其職務を余り熱心にやらなくても宜いと云ふやうな理窟が何処を押せば出て来るのか、夫れならば名誉職は結局不名誉職となるのではあるまいかと私は考へる、兎に角、名誉職なるものに対しては社会は充分に尊敬の意を払はなければならぬ、又之れを奉ずる人も大に努力しなければならぬ大

切なる地位である、従つて社会の第一流の人々が名誉職として続々其の仕事我希望する、村長になる、又は助役になる、争つて夫れを希望する事になる、社会が名誉を与へると云ふことのみで以て実に立派な人が非常な努力をされる事になって、乃で初めて国民が大いなる発展の基礎を得ることが出来るものであらうと堅く信ずるのであります〔拍手〕。

我国家の繁栄は実に盛なるものでありまして、今更歴史を繙くまでもなく、開闢以来未だ曾て斯くの如き盛時を見た事がないのであります、併し乍ら諸君、三十年の間、粒々辛苦して溜めましたる所の富も必ずしも十年を待たないで失つて仕舞ふ事がありませう、否な、一年掛らぬでも財産を蕩尽して仕舞ふことは往々あり得るのであります、一つの建物を建造するに致しましても、立派なる建築を致しますには一年二年の歳月を要するのは通常のことでありまして、之を打毀はす為めには僅かに十日や十五日の時間で足りる、之れは総ての事がさうである、事物を了解する、記憶すると云ふことには大なる努力を要するが忘れることには何等の働きの必要とせぬ、直ちに忘れて仕舞ふのであります、でありますから自治制施行以来三十年間に築き上げました簡様な立派な我が国家でも、今日以後怠慢で、そして今迄の辛苦を忘れて仕舞ふやうなことがあり

ましたならば、必ずしも三十年を待たない、二十年をも待たないで大なる変化が来ませう、そして既往三十年の努力の賜物であるところの富も平和も、一場の夢になって仕舞って果ては如何なる境遇、如何なる状態に陥らんとするか分つたものではない、今日は世界各国が実に非常なる焦熱の火中に陥つて居る、是は今更事々敷申上げる必要はありませんが、何れの国家も苦心惨憺致して居ります、臥薪嘗胆の時期と申すのは正に斯くの如き時を云ふものであらうと考へます、英吉利の如き、仏蘭西の如き、戦勝の榮譽を齎ち得て、そして大いに自負して居りますが、此等戦勝国に於きましては如何云ふ困難な、そして面倒な問題の為に頭を悩めつ、ありますが、我国では物価が高い、高くて困る、之れでは生活が出来ぬと申しますが、どんなに高くつても我国では物がありません、英仏の如き立派な国ですら高いどころの騒ぎではない、高くつても物が無いのである、俗に無い袖は振られぬと云ふ悲惨な今日の状態であります、又亜米利加の如き、毫も故障のなかるべき筈の国でさへ今日では一滴の酒も飲んでならぬと云ふ緊縮した境遇になって、乃で非常な覚悟で非常な馬力を掛けて以て国運を支へやうとして居る、一躍して國際的競争場裏に活歩するやうな位置に達しました我國民が此の紛糾した世界的不安の舞台に於いて優勝の地位を持続しやうと

致しまするのには華国一致即ち国土の一畝を遺さず國民の一員を剝さず大に発奮努力しなければならぬのは素よりであります、然も其の発奮は通常の程度では何にもならぬ、相手が世界と云ふ大きな恐ろしい者でありますのだけに、国としては国力の全部を傾倒し、國民としては隅々まで一寸の隙間もない程に緊張しなければならぬと思ふのであります、然るに顧みまして我國の現状は如何でありますか、表面に現はれたところから実質を推しますと実に今日を以て明日を測られないやうな甚だしい動揺を來たして居ります、勿論外國も大なる惑亂を來たして居りますが、外國は惑亂すべき事情の下に必然惑亂を致して居るものと私は存じます、と申しますのは、此の大なる戦争に於て生命も財産も凡て国を挙げ、存亡を賭して戦争を致したのであります、然るところ、戦争には勝つた、捷には捷つたが其の結果、大なる幸福を得たのは資本家である、富の有る人ばかりが大なる結果を得たのであると云ふ点に就きまして、或は生命を失ひ或は身体財産を損傷した者の家族遺族の連中が大に奮ひ起つて我々は国のために身を捨て、産を破り、非常なる努力をしたが、其の結果は僅かの人が其の戦功を収めた事になって仕舞つた、是では我々は満足することは出来ないと云ふ訳で、そこで種々の問題が茲に激発致したのであります、即ち国の為めには人より以

上に働いたのに、其れに与ふところの報酬はどうであるかと云ふ問題に就いて激発して居る状態であります、然るに我国は之れと大に趣を異にして居る、何時も順風に帆を揚げるが如き状態に於て此の大戦争を経過致しまして、実に国運が旭日のやうに昇つたのであります、之れが為めに国民の如何なる階級と雖も又如何なる地方と雖も不満のある筈は断じてないであります、外国の状態は正に不満があるべき筈であるが我国は其れと違つて斯くの如く洋々たる状態に於て国運が進んだのである、之れに対して不満を云ふべき筈はない、皆満足しなければならぬ筈である、ところが亦一概にさうばかりも申されませぬ、と申しまするのは、我国も世界の種々の事情、様々な出来事の為に影響を受けて、物価は益々暴騰をしました、夫れが奢侈品でも日用品でも何でもお構ひなしに騰りました、乃で生活難に追はれる者が多くなつて来る、是は今回の世界戦争に依つて持来された所の争ふべからざる事実であります、此の事實は争はれない、シテ見ますれば労働問題が必然に起つて来る、亦社会は此の問題を充分に考慮しなければならぬことになる、物価が暴騰して一般に生活難の叫びが起つて然かも此の場合に於ても尚儲かる者は資本家である、富裕の人である、中には一指を動かさず袖手傍観して居つて夫れでどん／＼儲かる者がある、ところが中層若く

は下層の者に於ては左様でない、同じ様に苦勞を重ね、同じ様に努力を致しても其の得るところは依然として旧レの如く何等變りはない、之れでは到底生活を維持することは出来ぬ、つまり、出来る丈け働いても生きて行くことが出来ぬと云ふことになる、シテ見れば懐手をして居つても富を累ねて行くところの資本家、工場主に対して我々が或要求をしますのは必ずしも無理ではない、即ち富の分配に就きまして適當なる又は必要相當なる要求をすると云ふことは此の社会の變遷に應ずるに就きまして強ち労働者が無理なことを云つて居るのではない、と云ふところ迄は私は同意を致したいと思ひます、併し乍ら其の要求をする場合に於きまして往々ストライキを起すことがある、資本主に向つて労働者がストライキを起すのは善いか悪いかと申しまするに、私はストライキも必ずしも悪くはないと云ふところまでは稍々同意を致します、夫れは資本家に向つて労働者が如何に要求をしても其要求が容れられなければ何にもならぬ、已むを得ぬから夫れでは我々は仕事を罷めますと云ふのは、是はどうも已むを得ざる所の順序であらうと思ひます、併し乍ら其の要求又はストライキなるものが夫れ丈けで止まらずして往々にして今日の人心が意外の辺まで刺戟せられまして、そして平和が突破されることになるのは頗る憂ふべきこと、断じて許すべからざること

ゝして私は全然反対をしますのであります〔拍手〕、往々にして暴行を企つる、或は不穩の言動をして憚らない、斯くの如き状態になりますのは、今日屢々見聞するところの真相でありまして同時に亦我々の痛心措く能はざる点であります、私は折々人から聞きますが〔私は斯くの如き場合を体験した事はありませんが私の友達が時々実験をする〕東京で電車に乗りますと労働者が沢山居る、非常に混雑をする、乃で労働者が私の友達に向つて「全体お前達は此の電車に乗る筈のものぢやない、お前達は遠慮するが当然であらう、我々は乗るべき権利がある」、斯う云ふことが折々起るさうであります、何たる暴状であるか、此の話を聞きますと私は実に憤慨に堪へないのであります、社会は自由とか平等とか云ふことにしなければならぬ、又すべきものであると真赤になつて主張するところの労働者が斯う云ふことを云ふは正に自分の主張を裏切つてはありませぬか、労働者は乗つて宜しい、有力の人、金持は乗つては悪い、自由だの平等だのと平常口癖のやうに叫んで居つて何処から斯くの如き論断が起ることが出来ませうか、道路であれ、交通機関であれ、貧富貴賤の別無く国民一般が自由に平等に之を利用するのが即ち交通機関たるものゝ本来の目的である、然るにも拘らず労働者が独りで交通機関を専らにすると云ふが如きは甚だしく暴慢なる言動と云

はなければならぬ、労働者其者は誤つて居ると思つては居らぬのでありませうが、之れは何処から見ても大なる誤りである、併し乍ら夫れは誤りだけでは済まぬ、斯くの如く明白なる条理を誤り、守るべき常軌を逸するのは少なからず社会の公けの秩序を害するものであります、今申しましたのはホンの卑近な一例に過ぎませぬが、諸君は尚ほ種々の事例を御持ちになつて居ることゝ存じます、元々公けの秩序なるものは単り我々官吏が之れに対して保障する位置に在るばかりのものではない、公けの秩序は官吏の為めの秩序ではない、又諸君の為めの秩序でもない、実に我國民全体に対し皆が一致して守らなければならぬところの極めて尊い規律であります〔拍手〕、此の國家の規律なる秩序に対して斯くの如き暴行、斯様な言動を敢てするのは諸君も國民も俱に全然容すべからざる立場に居らねばならぬものと存するのであります。

茲に於て大に考へねばならぬ問題があります、夫れは労働者自身の反省であります、自覚であります、前にも申します如く労働者が、正当なる要求、適切なる希望を貫徹しますのが為めに一致して行動する、遂にはストライキを起すと云ふ処まで行つても其の方法が正しくあり立派でありましたならば強ち咎むべきものでない、賞むべき事ではないかも知れぬが背に腹は代へられぬ、仕方がない、

已むを得ない、と斯う云ふ風に社会が認める、社会から認められると云ふ事は社会が同情をすると云ふ事に外ならぬ、此の社会の同情は労働者の唯一の後盾であります、労働者の正当なる要求又は希望を貫徹するが為めには欠くべからざる力であり、そして又社会の同情が翕然として集まるところで始めて労働者の要求が容れられるのであります、社会の同情を失って仕舞っては何物も成功しませぬ、又成功せしめてはなりません、労働者諸君が考ふべきところは此処であります、労働者が自己の向上を図り生活の安固を求めて之れを得やうとするには社会の援助、後盾を失はぬやうにしなければならぬ、ところが交通機関を専らにしようとしたり、ストライキをするるとて暴動を起したり穏かならぬ言動を敢てする、そして社会の公けの秩序を破ることになると社会の同情は無くなって仕舞ふ、夫ればかりではありませぬ、最近三十年間に於て漸く発達して来たところの我国の産業界に於きまして或は労働者が賃銀を無法に高くしたり或は怠業をしたり、ストライキを起したり年々さう云ふことが繰返されることになると只だ生産の能率が減るばかりではなくして生産品が悪くなったり、値段が高くなったり、色々な結果が出てくる、そして外国の生産品と我国の生産品と競争をして負けるやうなことになる、さうなりますと我国の産業が衰へる、産業に従事する

者が廃業したり或は転業したり或は工場を閉ぢたりしなければならぬやうになりましたならば、労働者^(マイ)を以て我国の産業の一部分を分担して居りますところの人達即ち労働者は如何になりまするか、昔は武士は食はねど高楊子、など云った時代もあったさうですが今の労働者が如何に強健な身体を持って居りましても^{まさか}目前食はずに議論を主張する訳には行きますまい、シテ見ますれば労働者と雖資本家工場主と共に我国の産業を保護すべき義務を有つて居るものと云ふべきでありませう、でありますから労働者の要求は適当なる程度でなければなりません、苟も国家の産業を破壊するやうな過当なる事を望んではなりません、又其の要求をする場合には公明正大な態度でなければなりません、仮りに社会の公けの秩序を害するやうな事があつてはなりません、殊に今日は世界的に非常なる場合でありますから、労働者も亦非常なる覚悟がなければなりません、労働者の自覚、言葉を換へて申しますれば、国家の産業を顧みまして国際的競争に負けぬやうにするが為めに労働者は自分の範囲を守り其の正当なる領域を脱しないで充分なる節制と規律とを保たなければならぬのであります。

次ぎに見なければならぬのは資本家であります、元々私は労働者でもなく又資本家でもない、従つて資本家の敵でもなければ味方で

もない又労働者の味方でもなければ敵でもありません、私は役人として個人としても凡ての問題を冷静に公平に判断しまして諸君と俱に之れを批評し得る位置に在ると思ひます、私は労働者に就きまして憚らないところを申し上げましたが、今日は労働者ばかりに自覚を求むる訳に行きませぬ、資本家諸君も大に反省して貰はなければならぬ必要に迫られて居ると思ひます、資本家が今日往々にして社会から様々な批評を受けて居りますのは強ち無理からぬ現状が在りはせぬかと思ひます、富があればこそ自動車にも乗って飛んで歩ける、飛んで歩く人は結構なものです、併し乍ら金持が非常なる塵埃を立て飛び廻って居る一方では後から目を掩ふて通行しなければならぬ者が沢山あるが之は余り結構ではない迷惑千万である、殊に雨天になりますと中に乗って居る人は安心して御座いますが、泥水を掛けられると云ふので狼狽うろた致よそ余所の見世先きに逃げ込まなければならぬとか或は折々目撃致しまするやうに傘を以て自動車の方を掩ふて其の泥水の掛るのを防いで居るとか云ふやうな現象があります、其の対照したところの凶形と云ふものは如何にも見るに忍びないものが御座います、私共も時々自動車に乗るべき場合がありますが斯くの如き場合になりますと非常な苦痛を感じます、即ち外出を躊躇ためらする程傷いたく頭を刺戟せきすることが少なからずあります、世の

中を見ますと或は大なる富を得て居るお陰で大なる邸宅を構へて居る、普通の人ならば何軒又は何十軒にも相当する程の邸宅を一人で占有して居る者がある、然るに一方では生活難と共に住宅難が喧しく叫ばれて居る、勿論此等の人の富は自分の力に依って作ったものありませうが、夫れは極めて稀れで、往々にして祖先の遺した財産に依って斯くの如き幸福を得て居る、祖先から得ましても或は自分が作りましても何れにしましてもそれは論じませぬ、兎に角資本家又は富裕なる人が此の我々の住んで居る社会を離れて斯様な富を致したと云ふことは断じてない、社会の趨勢又は時世の変移に依って社会から大なる助けを得て資本家が富なるものを為したのであります、自分が作ったと云ふより社会が与へたと云つてもいい位と思ひます〔拍手〕、一等の汽車は人込も少なく設備もよくて乗心地がいゝが、同時に三等の汽車は随分窮屈なものである、私は世の中の富める人達が我々の目前に現はれて居るところの此の社会の凶面を見たらば租税を吝むことは出来ない筈と思ふ、営業所得を隠したりすることは非常な罪悪だと思ふ〔拍手〕、又資本家が其の富を吝んで公益の為に寄付を迫まらるゝが如きも人として恥かしいものではあるまいかと思ひます、又寄付を迫られて憚るやうなこともありたくないものと思ひます〔拍手〕、之れも若し資本家が労働者の一

面を顧みられたならば、脱税の如き若くは寄付をするに對して吝かなるが如き觀念は起らざる筈である、出来ますることなら租税を多く収むることを名譽とするやうにあり度い、亦寄付を迫まらるゝ事がないやうにあり度い、寧ろ左様云ふ社会的良心の乏しい人は此の社会に居ないと云ふ確信を一般社会が持たたいものと思ひます、又斯くあつて始めて社会は此の変態に對して調和を図ることが出来るものであらうと深く信ずるのであります。

当地に於きましては、幸に有力なる諸君の非常なる奮発に依りまして、現に、救済協会の寄付金が僅か二ヶ月ならずして百万円に上るが如き状況になつて居ります、而して之を以て社会的施設を企てることになりまして或は社会問題に堪能なる博士、或は建築に對して才能ある技術者等に依頼しまして、我救済協会は今將に大なる仕事に着手せんとしつゝあります、私は此有力者諸君が社会の爲めに貢献されることは、今の、此の世の中に対して最も然るべき、最も時宜に適したることゝして批評をするのに吝かならぬものであります、又近くは阿部幸兵衛氏が百万円と云ふ沢山な金を寄付されまして公益事業の爲めに捧げられて居ります、或は増田氏が公設浴場を造られたとか、或は小野氏が商業学校の爲めに寄付をせられると云ふやうなことが続々ありますのは今日此の社会の急變に処する

に就きまして資本家が最も良い考案を現に頭に起されつゝあることを証するものとして深く喜ぶところの一人であります。

要するに資本家も、労働者も、各々自分の利益の爲めに働くのは是は当然のこと、又自分の利益を図りながら世の中の爲めに尽すところに社会の進歩があります、夫れ故に資本家、労働者が自分の利益を顧みて奮闘されるのは宜しいが、併しながら更に一步之れを超越致しまして、国家の利益を擁護するの義務を自覚して各々其の覚悟があつて然るべきものと云ふことを深く顧みて貰ひ度いものと思ひます〔大喝采〕。

十二時過ぎまして甚だお氣の毒であります、暫らく御猶子を願ひまして、今少し御話がして見度いと思ひます、資本家と労働者との付きましては既に申述べましたが、更に政治を行ふ者、政治を行はるゝ者、町村の吏員であれ、或は町村民であれ、何れも皆世の中に於て相對立して居るものである、相對立して始めて平和が得られる、對立即ちバランスが保たれませぬやうになつたならば顛覆を致します、世の中が余り急激に變化を致しますと往々にしてバランスが取れぬやうになりまして社会が顛覆することがあります、露西亞の如きは実に其の活きた実例の一つであります、露西亞と雖總ての事が間違つて居るのでは御座いますまい、相当なる理論、相当なる